



## 私のガザ・ストーリー (ガザにまつわる私のストーリー)

ミラ・リゼック (パレスチナ YWCA 総幹事)

2009年1月9日着

これはなんら目新しい物語ではなく、ここ何十年もにわたる、パレスチナ人としての私たちの生活の物語そのものです。60年以上の間、私たちはたくさんの戦争をくぐりぬけ、何度も住まいを追われ、自分の家や愛する者たちを何度も失い、とりあえず持てるものだけでも持っていられるよう苦闘しなくてはならないことを何度も繰り返して生きてきました。

今回のガザの戦争についてユニークなことは、悲劇の起きている場所と時間だけです。場所は数年ごとに変わりますが、標的はずっと変わらず、私たちの子どもたち・女性たち・家族たちなのです。

1948年には、それはジャッファでありアッカであり、その他のパレスチナの各地でした。同じ戦争のからくりと政権が、一度ならず全人口を居住地から追い出し、パレスチナ人は近隣の国々やパレスチナの別の地区で、何度も難民となりました。1948年、イスラエル軍はジャッファを車で乗り回し、パレスチナのアラブ人に「爆撃と砲撃を始める前に家を離れよ」とふれ回りました。こうして私の母の家族、すなわちエル・イーサー家は、自分達の家や思い出、子ども時代、持ちものの全てを置いて、1948年にジャッファを後にしました。母は結婚したばかりでしたが、すべての結婚プレゼントや自分で刺した刺繍の数々を永遠に失うことになるうとは知らず、それらを置いて出てきました。

今日、世界はいまだ沈黙のうちにこのガザにおける戦争を見つめ、いまだ真実を見ることを拒んでいます。今日ガザで起きていることは私たちにとって、イスラエルの占領が今もその全盛期であり、占領下には平和も正義もあり得ない、ということを強烈に思い起こさせるものに他なりません。

今、何百人ものガザの人々が殺され、子どもたち・女性たちも犠牲になっています。家族全員が虐殺されるということも起こっています。ファイエズ・ダヤーの家族は、ジャバリアの自宅がF16 ロケットによって破壊され、瓦礫の下に消滅しました。65歳の祖父であるファイエズ・ダヤーは、家族を救いたい一心で、砲撃が始まってジャバリアの家の屋根の下に子どもや孫全員を留め置こうとしました。家は破壊され、家族25人全員が瓦礫の下に埋まり、救助隊や近所の人々が彼らの遺体や彼らの遺した何らかの破片を掘り出すのに2日かかったということです。

今、皮肉なのは、ガザで虐殺され、住まいを追われ、貧困に追いやられている罪なく無防備な子ども

もたち・女性たち・一般市民が、人権宣言を発布し、あるいは支持している国連と諸国政府によってある決定が下されるのを今も待っているということです。それは、果たしてガザの子どもたちが、生存し、食べ、学校に行き、平和のうちに暮らすというような諸権利をもつことが可能かどうか、という決定です。

神よ、私たち無防備な民をあわれんでください。ああ神よ、どうか私たちの子どもたちが生命と真理の光を見ることができるよう、彼らをこの野蛮な戦争から救ってください。神よ、助けてください、世界に真実を示し、私たちが破壊でなく平和と正義のために働けるよう助けてください。ああ神よ、私たちが希望と尊厳を失うことがないようにしてください、私たちにはそれしか残されていないのですから。私たちの子どもたちは、この世界の他の子どもたち同様に、よりよい人生を送るに値します。ああ神よ、私たちがすべての人によりよい人生を創り出すことができるよう、勇気と知恵を与えてください。

(和訳: 日本 YWCA)